

香川高等専門学校

令和4年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和4年度 実績報告
<p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1(a) 入学希望者及びそのステークホルダーを対象とした香川高専webコンテンツの充実や、香川県下の各中学校長や進路担当教員との密な情報交換等により、効果的な広報活動を行い、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。</p> <p>①-1(b) 国公立高等専門学校合同説明会に参加する等、他高専と連携した組織的、戦略的な入学者確保の取り組みに努める。</p> <p>さらに、高専制度創設60周年に際して、一般社団法人全国高等専門学校連合会等の関係団体と連携して様々な広報活動を行う。</p>	<p>(1) 入学者の確保</p> <p>①-1(a) 入学者獲得に向けた入試関係のホームページ「Webオープンキャンパス」を開設し、7月末から3月初旬までの間、発信している。動画(高専教育全般、専門7学科+一般教育科、課外活動、入試情報等)を作成し、Webコンテンツの充実を図った。 https://www.kagawa-nct.ac.jp/school_affairs/OC/movie/openCampus_movie.html</p> <p>中学校主催の行事「高校説明会」にて、香川県下の中学校46校を訪問し、中学校校長並びに進路担当教員と情報交換を密に行い、香川高専の特長や魅力を中学校関係者に積極的に発信した。</p> <p>①-1(b) 国公立高等専門学校合同説明会(大阪)に参加し、他高専と連携した組織的、戦略的な入学者確保の取り組みに努めた。</p> <p>さらに、一般社団法人全国高等専門学校連合会等と連携して様々な広報活動を行った。</p>
<p>①-2(a) 対象を絞った入学者募集説明会(中学3年生・保護者を対象、中学教員・学習塾関係者を対象)、体験入学・オープンキャンパス(中学1~3年生・保護者・中学教員を対象、小学生~中学生を対象)、個別学校説明会、中学校主催の高校説明会・進路相談会、県内・近隣県への中学校訪問、母校訪問(教員による訪問、学生による訪問)、塾主催の保護者会、地域の各種イベント等の機会を活用し、香川高専の特長や魅力を発信する。</p> <p>①-2(b) 入学時の調査、各種イベント時の調査、中学校訪問時の情報収集、外部評価等を参考に、理工系進路選択を促す広報戦略を展開する。</p> <p>①-2(c) 中学校訪問・塾訪問を積極的に行い、広報誌の有効活用とともに、関係者との情報交換を入学者獲得対策に活用する。</p>	<p>①-2(a) 以下のとおり、オープンキャンパス(体験入学)、入学者募集説明会等を開催し、入学者獲得に向けた活動を行った。</p> <p>・教員による中学校訪問・塾訪問(53校)・オープンキャンパス(体験入学)(中学生・保護者等対象)8月6、7日 詫間キャンパス(参加者382名)、8月20、21日 高松キャンパス(参加者517名)。</p> <p>・国公立高等専門学校合同説明会(大阪)オンライン5組対応。</p> <p>・入学者募集説明会(中学校教員対象)10月7日 詫間キャンパス(23校)、10月12日 高松キャンパス(29校)、10月17日 岡山市(10校)。</p> <p>・入学者募集説明会(中学生・保護者等対象)10月8日 詫間キャンパス(参加者155名)、10月15日 高松キャンパス(86名)。</p> <p>・地区別学校説明会(中学生・保護者等対象)10月30日 綾川町(参加者15名)、丸亀市(参加者8名)、11月20日 岡山市(参加者6名)倉敷市(参加者4名)。</p> <p>・Webオープンキャンパス アクセス数2961(総再生回数2919:18コンテンツ)・中学校主催の高校説明会(46校)・学生による母校訪問(8校)・秋季オープンキャンパス(小学生・中学生対象)11月5、6日 詫間キャンパス(参加者138名)、高松キャンパス(参加者100名)。</p> <p>①-2(b) 入学時アンケートや各種イベント時のアンケートや外部評価等を参考に、本校卒業生(報道業界)に参画いただいた広報に係る会議内容を反映させ、広報物を専門デザイナーをまじえて作成した。</p> <p>①-2(c) 中学校主催の高校説明会の機会に、校長及び進路指導担当教員と積極的に情報交換を行い、中学生・保護者、中学校が特に必要としている情報や不安要素を把握し、学校説明会や中学校主催の高校説明会における発信に活かしている。</p>
<p>②-1(a) 女子小中学生向け広報資料を作成し、それらを活用した広報活動や、オープンキャンパスの女子中学生・保護者を対象とした相談コーナー設置、研究を伴う課外活動及び各種イベント等への女子学生の積極的参加を支援・促進する等により、女子入学希望者確保に向けた取組を推進する。</p> <p>②-1(b) 女子学生が高専の研究紹介等を行う高専女子フォーラムなどと連携して企画立案・実施し、女子への理工系進路選択を社会へアピールするとともに、女子入学希望者獲得へ連結させる。</p> <p>②-2 優秀な留学生の獲得に向けて、留学希望者を対象とした広報誌への発信並びに既存の広報物の英語版コンテンツや香川高専webコンテンツの充実等に取り組み、香川高専の特長や魅力を積極的に発信する。</p>	<p>②-1(a) オープンキャンパス(体験入学)、入学者募集説明会、高校説明会等において女子学生向けパンフレット(ガールズノート、キャリアデザインvol.1~6、輝く高専KOSEN女子、KOSEN探検)を配布した。また、Webオープンキャンパスや高校説明会、入学者募集説明会では、学校紹介での動画やナレーションにて多数の女子学生を起用し、その存在及び活躍をアピールした。</p> <p>②-1(b) 女子学生が高専の研究紹介等を行う高専女子フォーラムなどと連携して企画立案・実施する予定であったが、同フォーラムはR4年度は開催されなかった。</p> <p>②-2 優秀な留学生の確保に向けて、留学希望者を対象とした広報誌へ香川高専の特長や魅力を掲載すると共に、広報物「学校要覧」の英語版の充実や、「学校案内」にて留学生コラムを設けて留学生の活動紹介をするなど、香川高専を広くアピールした。</p>
<p>③ 香川高専の教育にふさわしい十分な資質、意欲と能力を持った多様な入学者を確保するため、入学選抜方法に関する調査を行うとともに、アドミッションポリシーの広く正確な発信や、推薦・学力・帰国生・編入学生の入学選抜方法を議論、検討する。</p> <p>さらに、令和4年度においては、Web出願システムを導入する。</p>	<p>③ 他高専及び公立・私立高校の入学選抜方法の情報を収集し、推薦選抜における出願要件、学力入試における傾斜配点、面接の実施等に関して2年後の実施を目指して議論を行う予定である。また、広報物「学校案内」におけるデザイン変更、内容の改変を行った。</p> <p>さらに、令和4年度においては、Web出願システムを導入し、その説明を中学校、中学生、保護者等に対して行った。</p>
<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p>①-1(a) “KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ採択事業「先端的複合技術者を育成する学科横断型複合教育プログラムの構築」(平成29年度)で設計・導入した一般教育科目の新カリキュラム(数学強化・物理学導入・リベラルアーツの充実)の効果を引き続き検証する。</p> <p>①-1(b) 教員の研究指導力を強化し、専攻科の研究指導を充実させる。「高専教員の研究力強化プログラム」等を活用する。</p>	<p>(2) 教育課程の編成等</p> <p>①-1(a) “KOSEN(高専)4.0”イニシアティブ採択事業「先端的複合技術者を育成する学科横断型複合教育プログラムの構築」(平成29年度)で設計・導入した新カリキュラムが年次進行で4年次まで適用された。一般教育科目における数学強化・物理学導入の効果を引き続き検証していく。</p> <p>①-1(b) 今年度、新たに高専教員の研究力強化プログラムに4名(高松キャンパス3名、詫間キャンパス1名)が採択された。</p>
<p>①-2 令和3年度から開始した香川大学と連携教育プログラムについて、令和4年度末のプログラム履修生修了に向けて教育・研究支援体制を充実させる。</p> <p>専攻科生の国際会議への参加を推奨し、国際会議での発表を経験し、国際的に活躍できる人材を育成する。国際会議において国内外の研究者と交流を深め、共同研究の機会を増やす。</p>	<p>①-2 香川大学との連携教育プログラムについて、教育プログラムのさらなる充実を目的として、情報通信システムコースを中心にカリキュラムの改善し、規定の見直しを行った。</p> <p>令和4年度に専攻科生が国際会議において13件(創造工学専攻5件、電子情報通信工学専攻8件)の発表を行い、国際交流を深めた。</p>
<p>②-1 本校が企画する、現地学生と協働して文化体験を行う「アクティビティ研修」や研究レベルの研修を行う「グローバルエンジニア研修プログラム」等の研修プログラムおよび、海外インターンシップを組織的に推進する。コロナの感染状況、入出国の制限等を鑑み、実施する場合は後期から年度末、あるいはオンラインによる実施を想定する。特別活動などにおいて、体験者の活動報告や報告会の動画の視聴を行うなど、学生の留学意識の向上を図るよう整備を継続する。</p>	<p>②-1 11/1より、学生・教職員の海外渡航の条件について、感染症危険情報レベル1、危険情報レベル1については、“十分に注意”を行うことで派遣が可能となった。</p> <p>これに伴い、12月には台湾国立成功大学を学生4名、教員3名が訪問し、合同授業の実施や研究室見学などを行った。2月にはマラエ工科大学(UiTM)と共催する国際会議にて教員2名が発表するとともに、今後の学術交流の内容について意見交換した。また、3月にはマレーシア科学大学(USM)にて本科学生1名が19日間インターンシップ活動を行った。</p> <p>さらに、次年度以降の英語研修先の検討として、3月に韓国永進専門大学英語研修の視察に英語科教員1名を8日間派遣した。</p> <p>また、Teamsにて国際交流室関係の報告会やグローバルキャリア教育の講演などがいつでも閲覧できるように整備し、全学生に周知した。</p>
<p>②-2 本校が企画する研修プログラムや国際交流プログラムを、オンライン方式を含め実施の検討を継続し、英語コミュニケーション能力の向上や海外に飛び出すマインドを育成させる取り組みを実施する。この一環として、本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育の取り入れや英語ネイティブ教員による英会話教室の継続を行い、学生の英語力向上を図る。</p> <p>また、海外派遣体験者の活動報告をまとめ、低学年の特別活動やTeamsなどの配信ツールを用いて視聴できるように整備を継続する。</p>	<p>②-2 台湾国立成功大学と連携し、10月よりAIとロボティクスに関するオンライン授業を実施した。授業時間数は30時間、受講学生数は、香川高専5名、成功大学25名。</p> <p>本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育を行った。</p> <p>英語ネイティブ教員によるオンライン英会話教室を春休み3月2日から10日間、各2時間実施した。</p> <p>Teamsにて国際交流室関係の報告会、募集周知などがいつでも閲覧できるように整備した。</p>
<p>③-1 他高専と連携を図って、四国・全国高等専門学校体育大会、四国・全国高等専門学校ロボットコンテスト、全国高等専門学校デザインコンペティション、全国高等専門学校プログラミングコンテスト等の運営実施に携わるとともに各大会に参加する学生の活動を万難を排し積極的かつ精力的に支援していく。</p> <p>③-2 災害ボランティアや地域貢献の重要性をパンフレットの配布や特活などの授業を利用して周知していく。また、香川高等専門学校学生表彰規定に則り、顕著なボランティア活動を行った学生及び学生団体の顕彰を積極的に行っていく。</p>	<p>③-1 四国・全国高等専門学校体育大会の運営実施をするともに、四国・全国高等専門学校ロボットコンテスト、全国高等専門学校デザインコンペティション、全国高等専門学校プログラミングコンテスト等に参加した。また、各大会に参加する学生の活動を積極的かつ精力的に支援した。</p> <p>③-2 、地域のイベント参加など、地域貢献の活動(地域神社の初詣後の清掃、河川敷等の清掃活動)は継続的に実施した。ただし、コロナ禍の現状において、学校として、学生を災害ボランティアに積極的に参加させることはできていない。</p>
<p>③-3 日本学生支援機構(JASSO)の海外支援制度に奨学金の申請について、受け入れプログラムの内容を精査して申請を行う。また、採択されたJASSOの派遣プログラムについて学生の海外渡航に対する支援を行う。</p> <p>Teams上に構築した国際交流室からの情報公開用チーム「国際交流室(公開)」にて、報告会の動画のアップロード・視聴に加え、国際交流相談室などのチャンネルを設け、「トビタテ!留学JAPAN」プログラムや高専機構や他高専が募集する海外留学プログラムの情報提供、相談対応を積極的に行う。</p>	<p>③-3 昨年度に引き続き、JASSOの派遣プログラムの申請を行い、採択された。</p> <p>ただし、新型コロナウイルスの状況から、学生・教職員の海外渡航に関する本校方針により11/1までは学生を海外派遣することができず、JASSOの支援を有効活用することができなかった。</p> <p>国際交流室が設置した情報公開用Teamにて海外留学等の情報提供を行うとともに、国際交流室員による個別相談対応を行った。</p>
<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保</p> <p>① 専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を採用時の条件とする。</p>	<p>(3) 多様かつ優れた教員の確保</p> <p>① 専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を条件に教員公募を実施した。</p>
<p>② 多様な教員の配置のため、クロスアポイントメント制度を導入し、地域企業や大学・研究機関等との人的交流を推進する。</p>	<p>② 多様な教員の配置のため、クロスアポイントメント制度を継続運用し、企業との人的交流を推進した。</p>
<p>③ 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、高専間の人事交流の一環として、同居支援プログラムを積極的に周知し、育児・介護で困っている教員の負担軽減を図る。また、女性教員にとって働きやすい職場環境の整備を推進する。</p>	<p>③ 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、高専間の人事交流の一環として、同居支援プログラムを積極的に周知した。また、ライフイベントにかかる本校の支援制度、手続情報を学内グループウェア内に集約・共有し、制度が利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行った。</p>
<p>④ グローバルエンジニアを育成するため、外国人教員の積極的な採用を検討する。</p>	<p>④ グローバルエンジニアの育成に資する外国人教員の採用に至らなかった。</p>
<p>⑤ 長岡、豊橋の両技術科学大学との人事交流制度を活用し、引き続き、候補者の選考を行う。</p>	<p>⑤ 長岡、豊橋の両技術科学大学との人事交流制度を活用するため、継続して案内し、候補者を募った。</p>

令和4年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和4年度 実績報告
<p>⑥ 機構本部が実施する新任・中堅・管理職教員研修会、中国・四国工学教育協会高専部会の教員研究会及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)等へ積極的に教職員を派遣する。また、近隣大学等が実施するFDセミナー等への派遣を推進する。</p>	<p>⑥ 機構本部が実施する研修に教員を派遣し、本校において教員の能力向上を目的とした研修を実施した。(機構本部主催)新任教員研修会:5名、教員研修会(管理職研修):2名、中堅教員研修会:2名(本校主催)第1回新任教員研修会:5名、FD・SD研修会:183名(教員101名、事務82名)また、中国・四国工学教育協会高専部会の教員研究会及び四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)等へ積極的に教職員が受講するよう周知した。(SPOD研修)大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ(課長、課長補佐相当級対象)):1名なお、SPOD研修では、講師を招へいし、加盟校の事務職員を対象にした「タイムマネジメント入門講座」をハイブリッド形式で実施した。(参加者:17名(他機関9名、本校8名))</p>
<p>⑦ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められる教員や教員グループを機構の教員顕彰に推薦する。</p>	<p>⑦ 香川高専の名を高める顕著な功績が認められる教員や教員グループを機構の教員顕彰に推薦した。</p>
<p>(4)教育の質の向上及び改善 ① 学校および各学科のディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーの点検を行うとともに、教育実践のPDCAサイクルを回すために下記項目を実施する。 [Plan] 点検したディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーに沿ったカリキュラム設計になっているか検証する。 [Do] デジタル教材や遠隔対応を効果的に対面授業に取り入れるような教育手法の導入を推進する。 [Check] CBT(Computer-Based Testing)による学習到達度確認結果を授業改善に役立てる。学習状況と卒業時満足度の調査を実施する。 [Action] 教員の資質向上・スキルアップのためのFD研修の開催を推進する。</p>	<p>(4)教育の質の向上及び改善 ① 学校の教育目的に基づき各学科のDPが設定されているが、学校としてのDPが設定されていないため、機構本部の示す高専DPの基本的考え方に沿って学校のDP案を策定した。それに基づいて各学科のDPおよびOPの見直しを行って行く計画である。 [Plan] 学校の教育目的を再確認し、学校としてのDP案を策定した。 [Do] デジタル教材の活用やオンラインでの連絡などを効果的に実施するため、BYODガイドラインを策定し、個人デバイスの活用を推進した。 [Check] 学習状況の調査を10月に実施した。卒業時満足度の調査を3月に実施した。 [Action] 教職員を対象として、9月に学生との関わり方および研究費のコンプライアンスに関する研修を開催した。また、3月にコミュニケーションスキル研修を開催した。</p>
<p>② 学内での特徴的な教育の取り組みを紹介する教育実践事例報告会の報告事例や、教職員による授業相互参観の報告書を点検・評価し、優れた事例の学内外での共有に努める。</p>	<p>② 12月5日に教育実践事例報告会を開催した。また、教職員による授業相互参観を高松キャンパスでは6月と11月に、詫間キャンパスでは11月に実施し、それぞれのキャンパスにおいて報告書を学内で共有した。</p>
<p>③-1 1~3年生を対象に学年・学科横断で導入した地域課題解決型のPBL科目「ブレ研究・研究基礎」について実施内容の充実を図るとともに、各学科におけるPBL導入を推進する。これらのPBL科目において学生のコンピテンシー評価の実施とその結果の学生へのフィードバックについても検討する。 また、地域の自治体等と連携し、小中学生を対象としたSTEAM教育の支援を行う。</p>	<p>③-1 地域課題解決型のPBL科目である「ブレ研究・研究基礎」は、高松キャンパス(ブレ研究)が8テーマ38人、詫間キャンパス(研究基礎)が3テーマ12人の受講人数で実施している。 また、高松市、三豊市と連携した小中学生向けのSTEAM教育支援として、高松市こども未来館たかまつミライエにて小中学生向けのイベントを年間19回実施、三豊市少年少女発明クラブの活動支援を年間19回実施した。</p>
<p>③-2 香川高専の支援組織である香川高専産業技術振興会、地域企業等の協力を得て、企業と連携した教育コンテンツの開発を推進する。</p>	<p>③-2 香川高専産業技術振興会企業(1社)の協力を得て、機械工学科の前期PBL科目で協働教育を実施した。また、専攻科建設環境工学コース学生に対し振興会企業(1社)による出前事業、機械電子工学科3年生の特別活動内における学内企業説明会にて、振興会企業(1社)を講師としキャリア教育を行った。</p>
<p>③-3 セキュリティを含む情報教育について、K-SEC等の教材及び講習会を活用し、教育内容の高度化を図る。</p>	<p>③-3 数理・データサイエンス・AI教育プログラム構成科目の内容(K-SEC教材を活用した情報教育を含む)を充実し、8月に文部科学省認定制度(リテラシーレベル)の認定を受けた。令和5年3月に7学科の3年生269人がプログラムを修了し、進級した。</p>
<p>④ 技術科学大学との連携を強化し、教育の質の向上につなげるとともに、人事交流についても積極的に教員に周知し、有機的な連携を推進する。</p>	<p>④ 技術科学大学との連携を強化し、教育の質の向上につなげるとともに、人事交流についても積極的に教員に周知し、有機的な連携を推進した。 豊橋技術科学大学の高専連携教育プロジェクト 申請数:5件 採択数:4件 高専—長岡技科大共同研究助成 申請数:2件 採択数:1件</p>
<p>(5)学生支援・生活支援等 ① (a) 個々の案件に対する情報共有は、関係教員によるチームで対応する。担任や相談室員との面談やカウンセリングが必要な学生に関しては、本校非常勤カウンセラーやスクールソーシャルワーカーとも連携して適切な支援を実施する。 (b) 発達障がいのある学生で合理的配慮の申請のあった学生に関しては、障がい学生支援委員会を開催し、支援を開始するとともに、進級時における支援継続の有無に関しても保護者と定期的に連絡をとりながら対応し、支援内容を決定する。支援についての合意書を学校、学生、保護者等の署名のうえで交付する。また、修学サポート室とも連携をはかりながら教育支援体制を強化する。 (c) 合理的配慮・支援のための入学前面談を実施する。教員、専門職員等の複数人面談を行うことで、より適切な支援を行う。 (d) 全学生を対象にした自殺防止アンケートについては、機構本部の「学校適応感尺度調査(高専生活に関するアンケート)」を実施するだけでなく、本校独自の「こころと体の健康調査」も実施する。 (e) 学生対象に「自殺防止」、「メンタルヘルス」の講演を実施する。 (f) 教職員対象に「発達障がい」、「家庭内トラブルを有する学生」に関する講習会の実施や定期的な事例報告会を実施し学生支援の向上に繋げる。 (g) 本校作成の面談基本シートをもとにした、担任による全学生面談を実施する。</p>	<p>(5)学生支援・生活支援等 ① 【高松】 (a) ・学生相談室に相談が入った場合は、担任・関係教員・学科長・スクールソーシャルワーカーと情報共有しながら、チームによるサポート体制を強化している。 ・長期休み前の支援として、学生や保護者に向けて学外の相談窓口を周知した。 ・スクールソーシャルワーカーが寮での相談日を設定し、寮行事(スポーツ大会等)にも参加した。 (b) 合理的配慮の要望のあった学生に対して障がい学生支援委員会を開催し、支援を行った(4名継続・2名新規)。 (c) 合理的配慮の入学前面談を実施した(新入生5名)。中学生向けオープンキャンパス時に、合理的配慮の相談ブースを設置した(8/20,21,10/15)。 (d) 全学生を対象にした自殺予防アンケート「高専生活に関するアンケート」を年2回実施した。学生相談室の面談基準を設定し、面談対象者には「心とからだの健康調査」にも回答してもらうこと、必要に応じてスクールカウンセラーに繋げることで自殺防止に努めた(4月・10月実施)。 (e) 7月6、13日に1年生を対象に本校スクールカウンセラーによる自殺予防講演会を、12月14、21日に2年生対象に本校スクールソーシャルワーカーによる自殺予防講演会をそれぞれ開催した。 (f) 全教員参加を呼び掛けた事例検討会を実施した(5/25、10/19実施) (g) 年度始めに、本校作成の面談基本シートをもとにした担任による全学生面談を実施した。 【詫間】 (a) ・個々の案件に対して(学生・教職員の相談・連絡やアンケート結果等から)、関係教職員・スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーが情報共有(グループウェアも利用しながら連携、チームとして対応、支援を行っている)。 ・学生・保護者・教職員・スクールカウンセラーに向けた専門医の相談を月1回2時間実施している。 ・休学者や不登校学生の希望者に対して、スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問を行っている。 ・三豊市子育て支援課の依頼で、スクールカウンセラーと連携しながら、見守り対象学生を支援している。 ・夏季休業期間・冬季休業期間・学年末休業期間中の家庭での見守りを保護者に依頼する文書を配布し、相談窓口を案内した。 ・学習相談の増加に伴い、教務関係者と連携、修学サポート室による支援を進めている。 (b) 合理的配慮を要望した新入生1名に対して、障がい学生支援委員会を開催し、合意書を作成・署名、合理的配慮に基づいた支援を行う事になった。昨年度から、修学サポート対象である3名は、関係教職員による支援を継続中である。また、後期、特別な支援が必要と考えられる学生4名(4年2名、3年1名、1年1名)に対し、強力な修学サポートを実施した。4年1名は、令和5年度も継続して実施予定である。 (c) 合理的配慮・支援のための入学前面談を、室長・看護師・スクールカウンセラーが実施した(新入生5名)。 (d) 全学生を対象に「学校適応感尺度調査」(6月実施済、1月実施済)、及び「こころと体の健康調査」(8月実施済、12月実施済)を各2回実施し、気になる学生を抽出、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの面談に繋げている。 (e) ・自殺予防講演会を、11月24日(本校スクールカウンセラーによる4年生対象)、1月23日(外部講師による2年生対象)に実施した。 ・1~3年生対象に、本校スクールカウンセラーによるメンタルヘルスセミナーを、学年毎にテーマを変えて、クラス単位で実施した(5月9日~7月25日)。 (f) 教職員対象に、本校スクールソーシャルワーカーによる、スクールソーシャルワーカーに関する研修会を8月26日に実施した。事例の1つとして「家庭内トラブルを有する学生」を扱った。後日、校内限定ビデオ配信を行った。また、外部講師による、発達障害に関する講演会を11月30日に実施した。 (g) 面談基本シートを利用し、4月に全学生を対象とした担任による面談を開始した。学生全局面談終了した担任とスクールカウンセラーによる面談を実施し、情報共有と、担任・スクールカウンセラー間の連携を密にした。</p>
<p>② 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報は、HPや一斉メール送信、香川高専だより、電子掲示、教室掲示を通して学生に迅速に周知する。また、税制上の優遇措置を含めた情報を産業界や地域振興会などの行事において積極的に発信し、奨学金制度の拡充に努める。</p>	<p>② 高専機構や産業界から収集した各種奨学金に関する情報を、HPや一斉メール送信、香川高専だより、電子掲示、教室掲示を通して学生に迅速に周知した。また、税制上の優遇措置を含めた情報を産業界や地域振興会などの行事において積極的に発信し、奨学金制度の拡充に努めた。新たに7件の奨学金が採用された。</p>
<p>③・産官や同窓会からの支援により、低学年からキャリア教育を推進する。 ・キャリアサポートセンターが提供するインターンシップ・就職・進学情報提供や相談に、Microsoft 365やホームページを活用した方法を推進する。 ・学生の就職支援をサイボウズなどを利用して学科長または担任と連携して実施する。 ・5年生に対して卒業前にアンケート調査を実施する。 ・同窓会や産業界技術振興会との連携により卒業生を活用したキャリア教育や就職・進学支援を検討する。</p>	<p>③・卒業生の協力を得て、低学年向けキャリアガイダンスを実施した。 ・Microsoft365と学内限定ホームページを活用し、キャリアサポートセンターからインターンシップ・就職・進学情報の提供を行った。 ・サイボウズを利用し、学科長または担任と連携して学生の就職支援を行った。 ・5年生に対して卒業前にアンケート調査を実施し、キャリアサポートセンターの支援について、96%が現状でよいとの回答を得た。(詫間) ・12/24に「香川高専生のための仕事研究セミナー」を実施した。(高松) ・2/28に「合同企業説明会」を実施した。(詫間)</p>
<p>1. 2 社会連携に関する事項 ① 香川高専ホームページの教員の技術シーズや研究成果などの情報と活動の詳細を検討し、情報発信の強化を図る。 Researchmapの更新を今年度も促し、連動している「国立高専研究情報ポータル」等のホームページの情報を最新にして発信する。 地域自治体等と連携した理科教育や社会人教育のための講座を実施する。</p>	<p>1. 2 社会連携に関する事項 ① 香川県の外郭団体であるかがわ産業支援財団と連携して地域の社会人向け講習会を5回実施した。高松市と連携し、市の保有施設である高松市こども未来館たかまつミライエで、小中学生向けイベントを19件実施した。また、この連携事業に関しては平成27年からブレ実施、平成28年から受託事業として実施しており、イベント回数が今年度で通算100回を超え、高松市からプレスリリースが発信され、今後の更なる協力体制への依頼を受けた。学生祭中に同時開催のイベント「サイエンスフェスタ」にてブレ研究の中間発表を行い、地域に向けての学生の研究内容を周知した。Research mapは、科研費の審査の際必要に応じて参照されることから、科学研究費申請時期に合わせて各教員へ更新を促した。</p>

令和4年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和4年度 実績報告
<p>②-1 第4ブロック高専として、高専リサーチアドミストレータ(KRA)や国立高等専門学校間の研究ネットワーク等を活用し、産業界や地方公共団体との新たな共同研究・受託研究の受入れを促進するとともに、効果的技術マッチングのイベント等でその成果の情報発信や知的資産化に努める。</p> <p>②-2 令和2年に設置したAI社会実装教育研究本部及び各キャンパスに置かれたAI社会実装教育研究センターにおいて、本校の教育研究資源やその成果を用い、AIの基礎教育及び応用教育を行う。学生、研究者及び地域企業の拠点を狙った教育プログラムを実施する。</p> <p>②-3 令和3年に香川高専を含む高専機構内12高専で立ち上げた「高専AIプロジェクト」内の情報交換等を積極的に行いそれぞれの高専が持っている地域課題(地域企業からの共同研究、自治体からの依頼等)を高専間で連携し、(一社)みとよAI推進機構:MAIZM、東京大学松尾研究室の協力を得て解決することを目標とする。</p> <p>②-4 KOSEN型産学共同インフラメンテナンス人材育成システムの構築(KOSEN-REIM)に参画し、令和2年度に設置した本校社会基盤メンテナンス教育センター(iMec)において、地域における社会基盤のメンテナンスを行う人材を育成する事業の実施に向けた地域連携の推進及び情報発信を行う。</p>	<p>②-1 KRAと連携して、若手教員の外部資金獲得や特許取得や活用に向けた推薦教員を両キャンパスから2名選定し、緊密な情報伝達の橋渡しをした。学内の教職員、学生が特許取得に向けて気軽に相談できる窓口として、非常勤講師の弁理士にお願いして、講義後に知財リエゾンスペースという相談窓口を令和4年10月20日(木)～11月24日(木)まで開設した。</p> <p>②-2 令和2年に設置したAI社会実装教育研究本部及び各キャンパスに置かれたAI社会実装教育研究センターにおいて、本校の教育研究資源やその成果を用い、AIの基礎教育及び応用教育を行う。学生、研究者及び地域企業の拠点を狙った教育プログラムを実施した。(AI特化コース(通称)を令和4年度から開設しAI[I]:AIサマースクールAI[II]:成功大学連携講座を開講した。)</p> <p>②-3 令和3年に香川高専を含む高専機構内12高専で立ち上げた「高専AIプロジェクト」内の情報交換等を積極的に行いそれぞれの高専が持っている地域課題(地域企業からの共同研究、自治体からの依頼等)を高専間で連携し、(一社)みとよAI推進機構:MAIZM、東京大学松尾研究室の協力を得て解決することを目標とする。(令和3年度補正予算の共同調達で高専AIプロジェクトの予算申請が採択され香川高専が取りまとめて令和4年度内に導入予定になっている)</p> <p>②-4 令和3年度に設置した香川社会基盤メンテナンス推進協議会を継続し、総会・部会を実施しながら地域の人材育成についての検討および、情報提供を行った。橋梁点検講習会について、計4回実施し、これまで目標通り実施できており、完了後にはSNSやホームページで成果の発信を継続した。</p>
<p>③-1 学校広報誌の電子ファイル化による一般公開により、学内外に学生の活動内容や学内イベントなどを幅広く発信する。また、ロボットコンテスト、デザインコンテスト、プログラミングコンテストなど本校の学生の活動状況を積極的にPRするwebページを更新し、高専での学生生活の魅力を外外に発信する。</p>	<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HPTトップに70件のお知らせと210件のトピックス、英語ページに8件のトピックスを掲載し、活動内容やイベントを広く発信した。 ・HPTトップの重要なお知らせに、新型コロナウイルス感染症に対する本校の対応についてを掲載し、社会情勢を踏まえた学校の方針修正のたびに、最新情報に更新した。また、本校教職員の働き方改革についてを掲載し、改革の一環として相談・問い合わせ時間を明示し保護者の方に理解と協力を求めた。 ・HPTトップに設置したWebオープンキャンパスを新たなデータに更新し、学生の活動状況を積極的にPRした。 ・広報誌「高専だより」は、昨年度に続いて電子化し、学生・保護者の方に幅広く情報提供できるようWebサイトからダウンロードできるようにした。
<p>③-2 学生、教職員、卒業生、本校への入学を希望される方、その保護者及び本校に興味を持って下さる方に対して、本校で行われる各種イベントの告知や実施報告などの情報を迅速に提供できる香川高専のSNS公式アカウントを立ち上げ、積極的に情報発信を行う。</p>	<p>③-2 本校HPTトップのお知らせで周知している。昨年度から開設した社会基盤メンテナンス教育センターのFacebookアカウントを通じて、当センターで行われるイベントの告知や実施報告などの情報を継続的に提供した。</p>
<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p>	<p>1. 3 国際交流等に関する事項</p>
<p>①-1 高専機構の対応に応じて、第4ブロック高専や各国大使館、JICA四国等と連携し、諸外国への「KOSEN」の導入支援に協力する。</p>	<p>①-1 依頼がなかった。</p>
<p>①-2 モンゴルにおける「KOSEN」の導入支援として、高専機構の対応に応じて、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。</p>	<p>①-2 依頼がなかった。</p>
<p>①-3 タイにおける「KOSEN」の導入支援として、1名の専門学科教員を派遣を継続し、導入に対して現地で支援や実施を行う。混住型学生寮の整備に伴い、タイの高専からのインターンシップの受け入れ体制の検討を行う。</p>	<p>①-3 1名の教員の派遣を継続した。高専機構タイ高専教員派遣要請に応え、2名を推薦した。高松キャンパスの国際寮について、施設が整備され、1階西側ユニットはタイ高専他海外からの短期派遣留学生優先として運用のルール策定を行った。</p>
<p>①-4 ベトナムにおける「KOSEN」の導入支援として、高専機構の対応に応じて、本校として支援可能な教員研修や教育課程の助言等に協力する。</p>	<p>①-4 依頼がなかった。</p>
<p>①-5 高専機構による「KOSEN」導入の支援に協力し、リエゾンオフィスを設置している国以外で本校の協定校を訪問する機会があれば、「KOSEN」について正しい理解の浸透を図る。</p>	<p>①-5 依頼がなかった。</p>
<p>② 「KOSEN」導入支援に係る取組みにおいて、本校の学生及び教職員が実践的な研修等に携わることを推進し、国際学会やセミナー等の参加を積極的に推進する。</p>	<p>② 国際学会の教員の参加・発表(5名(オンライン2名含む))ISATE2022での教員の発表(2名)をはじめ、11/1以降の海外渡航の条件の緩和により、教員の海外現地開催の国際学会への参加が実現した。マラ工科大学(UiTM)主催の国際会議(MJIC2023)では教員2名が発表。また、マレーシア科学大学(USM)にインターンシップ学生1名を派遣した。JSTS2022には学生1名が参加した。</p>
<p>③-1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協定校での研修による単位互換制度の整備の検討を継続する。 ・本校が企画する「グローバルエンジニア研修プログラム」を継続し、学生を海外の協定校に派遣する機会を後押しする。コロナの感染状況、入出国の制限等を鑑みて、実施する場合は後期から年度末、あるいはオンラインによる実施を想定する。 	<p>③-1 単位互換制度の検討を継続する。11/1より、学生の海外渡航の条件について、感染症危険情報レベル1、危険情報レベル1については、「十分に注意」を行うことで派遣が可能になった。マレーシア科学大学(USM)に本科学学生1名を19日間派遣した。</p>
<p>③-2 本校が企画する研修プログラムや国際交流プログラムを、オンライン方式を含め実施の検討を継続し、英語コミュニケーション能力の向上や海外に飛び出すマインドを育成させる取り組みを実施する。この一環として、本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育の取り入れや英語ネイティブ教員による英会話教室の継続を行い、学生の英語力向上を図る。また、海外派遣体験者の活動報告をまとめ、低学年の特別活動やTeamsなどの配信ツールを用いて視聴できるように整備を継続する。</p>	<p>③-2 台湾国立成功大学と連携し、AIとロボティクスに関するオンライン授業を実施した。授業時間数は30時間、受講学生数は、香川高専5名、成功大学25名。また、台湾国立成功大学を学生4名、教員3名が訪問し、合同授業の実施や研究室見学などを行った。英語コミュニケーション能力の向上のために、本校英語科と協力し、一般事業者の英語教材による教育を行った。さらに、次年度以降の英語研修先の検討として、韓国永進専門大学英語研修の視察に英語科教員1名を派遣した。また、英語ネイティブ教員によるオンライン英会話教室を春休み3月2日から10日間、各2時間実施した。Teamsにて国際交流室関係の報告会やグローバルキャリア教育の講演などがいつでも閲覧できるように整備し、全学生に周知した。</p>
<p>③-3 日本学生支援機構(JASSO)の海外支援制度に奨学金の申請について、受け入れプログラムの内容を精査して申請を行う。また、採択されたJASSOの派遣プログラムについて学生の海外渡航に対する支援を行う。構築したTeamsの国際交流室(公開)にて、報告会の動画のアップロード・視聴に加え、国際交流相談室などのチャンネルを設け、「トビタテ!留学JAPAN」プログラムや高専機構や他高専が募集する海外留学プログラムの情報提供、相談対応を積極的に行う。</p>	<p>③-3 昨年度に引き続き、JASSOの派遣プログラムの申請を行い、採択された。ただし、新型コロナウイルスの状況から、学生・教職員の海外渡航に関する本校方針により11/1までは学生を海外派遣することができず、JASSOの支援を有効活用することができなかった。国際交流室が設置した情報公開用Teamにて海外留学等の情報提供を行うとともに、国際交流室員による個別相談対応を行った。トビタテ!留学JAPAN体験者による留学相談会を11/21に開催し、専攻科学生1名がトビタテ!留学JAPAN[大学生等コース]に応募申請した。</p>
<p>④-1 外国人留学生の受入れを推進するため、協定校のうち2年制の学校に対して、学校要覧(英語版)と本校専攻科入学募集要項を配布する。国際交流室のトピックス記事について英語版を作成し、ホームページに掲載する。</p>	<p>④-1 11月に来校したマラ工科大学(UiTM)の訪問団などに本校紹介資料等を配布した。また、12月の台湾国立成功大学の訪問の際に、英語版学校要覧を配布した。国際交流室のトピックス記事について、日本語版に加え英語版を作成し、ホームページに掲載した。</p>
<p>④-2 1年次からの留学生の受け入れの検討について、先行的に実施している高専の事例の調査と情報交流を継続し、本校の課題と改善点を明確にして、継続的に検討を行う。</p>	<p>④-2 昨年度に引き続いて、先行高専の運用方法を調査し、情報を入手して活用した。高松キャンパスに国際寮が新設され、これまで以上に留学生の受け入れが可能となった。新1年生の受入れは国際寮開寮に伴い、優先的に受け入れできるように整備した。</p>
<p>⑤ 海外留学する学生に対して、事前に海外旅行保険に加入するよう徹底する。また、渡航する教職員にも海外旅行保険に加入するよう周知して安全面の配慮を行う。加えて感染症対策に関する派遣国および日本の情報を定期的に入手し、渡航学生、教員の事前教育を徹底する。外国人留学生の学業成績や資格外活動の状況等の的確な把握や適切な指導等の在籍管理に取り組む。</p>	<p>⑤ 海外渡航する学生に対して、海外旅行保険に加入するよう徹底した。また、学生が事前に提出する「海外渡航届」をコロナウイルス感染症対応の様式に改定した。学生の海外渡航の際は、国際交流室で従来行ってきた安全指導のみならず、新型コロナウイルス感染症に関する個別指導を行った。外国人留学生に対しては、担任、国際交流室、寮務スタッフ、留学生サポート教員等で情報交換しながら学業成績の確認や進路指導など十分な取組がなされ、留学生は優れた成績を修めた。</p>
<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2. 1 一般管理費等の効率化</p> <p>一般管理費削減のため、コスト削減を引き続き実施する。詫間キャンパスにおいては、処分に係る優先順位の高い廃棄物から計画的に処理を行う。既存物品の再利用など、消耗品のコスト削減を引き続き実施する。調達においては、競争性、透明性の高い一般競争契約を実施し、経費削減に努める。</p>	<p>2. 業務運営の効率化に関する事項</p> <p>2. 1 一般管理費等の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般管理費削減のため、コスト削減を引き続き実施した。 ①建設環境工学科不要物品(A4プラスチック製2穴ファイル49冊)を入札関係書類の保管に再利用した。②次年度事業系一般廃棄物(缶・ビン・ペットボトル)収集運搬:月2回収集から月1回収集へ変更し、年間26,400円削減した。(一般管理費からの負担は10%のみ) ③次年度定期刊行物 物価資料について、毎月配本から隔月配本へ変更し、8,430円削減した。 <p>・調達においては、競争性、透明性の高い一般競争契約を実施し、経費削減に努めた。高松CP一般競争入札実施件数:12件(政府調達2件含む) 詫間CP一般競争入札実施件数:7件(政府調達4件含む)</p>
<p>2. 2 給与水準の適正化</p> <p>関係規則等に基づき、適正に給与決定を行う。</p>	<p>2. 2 給与水準の適正化</p> <p>関係規則等に基づき、適正に給与決定を行った。</p>
<p>2. 3 契約の適正化</p> <p>業務運営の効率化及び国民の信頼の確保の観点から、随意契約の適正化(透明性の確保、公正な競争の促進)を推進し、契約は原則として一般競争入札等により行う。さらに、引き続き「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について(平成27年5月25日総務大臣決定)」に基づき、入札要件の緩和や公告期間のより十分な確保等により、複数社による応札、応募業者の増加に努める。</p>	<p>2. 3 契約の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入札及び契約の適正な実施については、入札及び契約に係る情報をホームページに公表し、仕様策定の段階でカタログなどを精査し、複数社による応札、応募業者の増加に努めた。 ・公告期間のより十分な確保等により、複数社による応札、応募業者の増加に努めた。 <p>入札公告期間は、原則、休日(土、日、祝日)を除く10日以上と定められているが、休日(土、日、祝日)を除く12日以上となるよう対応した。高松CP 公告期間12日:3件、16日:1件、17日:1件、18日:1件、19日:1件、20日以上:5件(政府調達2件含む) 詫間CP 公告期間12日:2件、15日:1件、20日以上:4件(政府調達4件含む)</p>

令和4年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和4年度 実績報告
<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 校長のリーダーシップのもと予算配分方針を検討し、企画運営会議で審議して教員会議等で周知する等、透明性・公平性を確保した予算配分に努めるとともに、年度途中で予算の執行状況に応じて予算配分の調整を行う。 業務達成基準による収益化を原則とし、収益化単位の業務ごとに予算と実績を管理する。</p>	<p>3. 予算(人件費の見積もりを含む。)、収支計画及び資金計画</p> <p>3.1 戦略的な予算執行・適切な予算管理 機構本部から示達された当初予算について、予算計画及び予算配分方針に基づき予算編成を行い、企画運営会議での審議を経て、予算配分を行った。併せて、科研費をはじめとする競争的資金や外部資金の獲得、経費削減、予算執行・管理の計画的執行について、依頼し、適切な予算管理を実施した。 また、年度途中の追加予算については、機構本部からの予算通知内容に基づき、適切に予算配分を実施した。</p> <p>なお、年度計画通り、業務達成基準による収益化を実施し、収益化単位ごとに予算と実績を管理した。</p>
<p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <p>・AI社会実装教育研究本部の下、三豊市・東京大学と連携した一般社団法人みとよAI社会推進機構(MAiZM)、東京大学大学院松尾研究室みとよサテライトでの社会連携活動の推進等を通じ、共同研究、受託研究等を促進し、外部資金の獲得の増加を図る。また高専機構内12高専で立ち上げた「高専AIプロジェクト」にてAI技術の連携を推進し、将来共同研究、受託研究等に結びつくような活動を開始する。さらに学生のアントレプレナーシップ教育の一環として学生スタートアップをMAiZMの協力を得て推進する。 ・香川高等専門学校産業界技術振興会等と連携した、教職員による企業見学会、イブニングセミナー、シーズ発表会等の開催により、企業技術者等との交流を深め、地域企業とのマッチングを推進するとともに、共同研究プロジェクトへの展開を推進し、外部資金の獲得の増加を図る。 ・OB・OGによる就職セミナーやホームカミングディ等において、卒業生が就職した企業等との交流を図り、寄附金の獲得に繋げるとともに、本年度から設立した学生支援のための香川高専支援基金の受入れのための方策について検討する。</p>	<p>3.2 外部資金、寄附金その他自己収入の増加</p> <p>令和4年度外部資金受入れ状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究 14件 ・受託研究 3件 ・寄附金 29件 ・受託事業 3件 ・科研費 46件 <p>総額 78,362 千円</p>
<p>4. 短期借入金の限度額 該当無し</p>	
<p>5. 不要財産の処分に関する計画</p> <p>以下の重要な財産について、国庫納付に向けた諸手続きを機構本部と連携し、速やかに実施する。</p> <p>勅使町団地(香川県高松市勅使町字小山398番20)5,975.18㎡</p>	<p>5. 不要財産の処分に関する計画</p> <p>・国庫返納に向け、四国財務局担当者と諸手続きについて連絡・協議を行った。</p> <p>・四国財務局による現地視察時に指示された、工作物等の撤去工事が完了し、併せて返納手続きに関する書類を四国財務局と機構本部へ提出した。</p> <p>・10月28日付で文部科学省より「不要財産の現物による国庫納付について」にて、「不要財産受渡証書」が送付され、現在は同日付で該当資産の除却処理を手続きを行った。</p> <p>・令和5年3月9日付で文部科学省より「独立行政法人国立高等専門学校機構の不要財産における減資対象額の決定について」にて、資本金の減少対象額が決定し、不要財産(勅使町団地)の国庫納付に伴う減資を行った。</p>
<p>6. 重要な財産の譲渡に関する計画 該当無し</p>	
<p>7. 剰余金の使途 該当無し</p>	
<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>8.1 施設及び設備に関する計画</p> <p>①-1 環境・施設マネジメント委員会を中心として施設マネジメント(キャンパスマスタープランの見直し、施設の有効活用における利用状況調査・スペース再配分・インフラ長寿命化計画等)を推進する。また、寄宿舎などの学生支援施設の実態調査とニーズ調査を踏まえた整備計画に基づき、必要に応じて整備を推進する。</p>	<p>8. その他主務省令で定める業務運営に関する事項</p> <p>8.1 施設及び設備に関する計画</p> <p>①-1 環境・施設マネジメント委員会及び同キャンパス部会を開催し、施設整備等について協議決定しており、協議内容を踏まえ機構本部施設課・整備課との連絡調整を実施しながら、施設マネジメント(キャンパスマスタープランの見直し、施設の有効活用における利用状況調査・スペース再配分・インフラ長寿命化計画等)を推進している。 なお、キャンパスマスタープランの見直し(令和5年度、6年度の概算要求内容・実施年度の見直し、改修計画表の作成)を完了し、施設の有効活用における利用状況調査を実施し、スペース再配分を行った。(ボイラー室→学務課書庫) インフラ長寿命化計画については、引き続き実施している。 また、学生寮の整備計画について、高松キャンパス・詫間キャンパス共に計画を制定し、高松CPIについては、令和4年度 国際寮を新設、西共用棟の改修を実施した。詫間CPIについては、紫雲寮(女子寮)・寄宿舎2棟・寄宿舎3棟の整備年次を環境・施設マネジメント委員会で検討し、概算要求を実施した。</p>
<p>①-2 既に完了している構造体及び非構造部材(屋内運動場の照明器具等)の耐震化について、耐震性能の保全に努める。</p>	<p>①-2 耐震部材の今年度の点検を実施した。</p>
<p>② 教職員に対しては、安全衛生委員会等を通じて、安全衛生管理のための講習会への受講を促すとともに、学生に対しては、「実験実習安全必携」を学内ホームページに掲載して周知する。</p>	<p>② 安全衛生委員会等を通じて、安全衛生に関する講習会への受講を促した。「実験実習安全必携」については、学内ホームページに掲載して周知を行った。</p>
<p>③ 女子学生の修学環境改善、女子寮の居住環境改善、女性教職員の就業環境改善について、必要に応じて整備を推進する。</p>	<p>女子学生や性的少数者(LGBT)・障害者など誰もが使いやすい機能等を検討し、環境改善として、『誰でもトイレ』の新規設置も含めたりリニューアル(高松キャンパス管理部及び一般教育棟1階の学生教職員・外来者が多数利用する老朽化したトイレ)と「屋外トイレ(高松CP運動場横)並びに体育器具庫(高松CP野球場横)の老朽化したトイレのリニューアル」について、令和5年度営繕予算要求を実施した。</p> <p>なお、女子寮の居住環境改善については、詫間キャンパスの国際交流寄宿舎改修(女子寮)について環境・施設マネジメント部会及び環境・施設マネジメント委員会において検討し、令和5年度概算要求の実施並びに令和6年度概算要求事業の検討を実施した。</p>
<p>8.2 人事に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <p>① 外部人材の起用及びアウトソーシングを活用し、業務効率化を図る。</p>	<p>8.2 人事に関する計画</p> <p>(1)方針</p> <p>① 外部人材として課外活動指導員9名、スクールカウンセラー7名、スクールソーシャルワーカー3名、心療内科医1名雇用した。また、寮の宿日直業務の一部についてアウトソーシングを行った。</p>
<p>② 提示された教員人員枠の中で戦略的な教員配置を行い、計画的な人事交流を行い資質向上を図る。</p>	<p>② 提示された教員人員枠を完了させた。機構の人事交流に応募したが、マッチングしなかったため結果として成立していない。</p>
<p>③ 弾力的に教員人員枠を使い、若手教員確保に務める。</p>	<p>③ 弾力的に教員人員枠を使い、若手教員確保に務めた。新たに助教を4名、講師を1名採用した。</p>
<p>④-1 専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を採用時の条件とする。</p>	<p>④-1 専門科目担当教員については、博士の学位を持つ者を条件に教員公募を実施した。</p>
<p>④-2 多様な教員の配置のため、クロスアポイントメント制度を導入し、地域企業や大学・研究機関等との人的交流を推進する。</p>	<p>④-2 多様な教員の配置のため、クロスアポイントメント制度を活用し、地域企業との人的交流を推進した。</p>
<p>④-3 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、高専間の人事交流の一環として、同居支援プログラムを積極的に周知し、育児・介護で困っている教員の負担軽減を図る。また、女性教員にとって働きやすい職場環境の整備を推進する。</p>	<p>④-3 教員が仕事と生活の両立を図ることを支援するため、高専間の人事交流の一環として、同居支援プログラムを積極的に周知した。また、ライフイベントにかかる本校の支援制度、手続情報を学内グループウェア内に集約・共有し、制度が利用しやすい体制を整え、女性教員が働きやすい環境の整備を行った。</p>
<p>④-4 グローバルエンジニアを育成するため、外国人教員の積極的な採用を検討する。</p>	<p>④-4 グローバルエンジニアを育成するため、外国人教員の積極的な採用を検討する。</p>
<p>④-5 シンポジウム及び研修会への参加、ニューズレターへの配布を積極的に行い、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発に努めると共に学内グループウェアにて情報集約する。</p>	<p>④-5 シンポジウム及び研修会への参加、ニューズレターへの配布を積極的に行い、男女共同参画やダイバーシティに関する意識啓発に努めると共に学内グループウェアにて情報集約する。機構本部からの啓発動画視聴を推奨した。</p>

令和4年度 年度計画 (高専名:香川高等専門学校)	令和4年度 実績報告
<p>⑤ 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施又は他機関研修に派遣支援することで資質の向上を図る。 事務職員については、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)、機構本部、国及び近隣大学等が実施する研修会へ積極的に参加させる。</p>	<p>⑤ 教職員の人事交流を進め、多様な人材の育成を図るとともに、各種研修を計画的に実施し、他機関研修にも派遣支援することで資質の向上を図った。 (本校主催) 新任教員研修:5名 FD・SD研修会:183名(教員101名、職員82名) 管理職研修:20名(教員13名、職員7名) (機構本部主催)6件、15名 (人事院四国事務局主催)7件、11名 (大学主催)3件、7名 (四国地区高等専門学校主催)1件、2名 また、四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)へ積極的に参加させた。 (SPOD研修)1件、1名 なお、SPOD研修では、講師を招へいし、加盟校の事務職員を対象にした「タイムマネジメント入門講座」をハイブリッド形式で実施した。 (参加者:17名(他機関9名、本校8名))</p>
<p>(2)人員に関する指標 各種研修等に派遣することにより職務能力を向上及び業務効率化を図り、適切な人員配置に努める。</p>	<p>(2)人員に関する指標 各種研修等に派遣することにより職務能力を向上及び業務効率化を進め、適切な人員配置につなげる。 (機構本部主催) 新任教員研修会:5名 初任職員研修会:3名 新任課長研修会:1名 教員研修会(管理職研修):2名 中堅教員研修会:2名 新任教務主事候補者向け研修会:2名 (人事院四国事務局主催) 四国地区係長研修:1名 四国地区女性職員研修:1名 四国地区中堅係員研修:1名 (大学主催) 中国・四国地区国立大学法人等係長研修:3名 中国・四国地区国立大学法人等技術職員組織マネジメント研究会:2名 (四国地区高等専門学校主催) 四国地区国立高等専門学校技術職員研修:2名 (SPOD研修) 大学人・社会人としての基礎力養成プログラム(レベルⅢ(課長・課長補佐相当級対象)1名</p>
<p>8.3 情報セキュリティについて 令和2年度の機構本部による情報セキュリティ監査の結果、および、法人の情報セキュリティ監査からのフィードバックを評価し、必要な対策を講じる。情報セキュリティインシデント対応手順の修正、ライセンス管理のルール策定および実施を進める。 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るために、機構本部の指示に従い、以下を実施する。 1. 情報セキュリティ教育(e-learning)、インシデント対応訓練、情報担当者対象の情報セキュリティに関する研修、管理職対象の情報セキュリティトップセミナーを対象者に受講させる。 2. 機構内で共有されたインシデント情報を、必要に応じて、教職員へ周知する。 3. 初期対応「すぐやる3箇条」を周知し、実行徹底の呼びかけにより、情報セキュリティインシデント予防および被害拡大防止を啓発する。 4. メール誤送信防止機能の導入を推進する。</p>	<p>8.3 情報セキュリティについて 令和2年度の機構本部による情報セキュリティ監査の結果、および、法人の情報セキュリティ監査からのフィードバックを評価し、必要な対策を講じている。情報セキュリティインシデント対応手順の修正を進めている。 全教職員の情報セキュリティの意識向上を図るために、機構本部の指示に従い、以下を実施している。 1. 情報セキュリティ教育(e-learning)(2回実施済み)、インシデント対応訓練(2回実施済み)、情報担当者対象の情報セキュリティに関する研修(1回実施済み)、管理職対象の情報セキュリティトップセミナー(2回実施済み)を対象者に受講させた。(情報セキュリティ教育受講率:100%、情報セキュリティトップセミナー29名受講) 2. 機構内で共有されたインシデント情報を、必要に応じて、教職員へ周知した(高専機構CSIRT 情報セキュリティ関連ニュース 16件等)。 3. 初期対応「すぐやる3箇条」を周知し、実行徹底の呼びかけにより、情報セキュリティインシデント予防および被害拡大防止を啓発した。(教員会議での発言) 4. メール誤送信防止機能の導入を推進した。(事務部は全員導入)</p>
<p>8.4 内部統制の充実・強化 ①-1 必要に応じ、WEB会議システムを活用した各種会議に参加する。</p>	<p>8.4 内部統制の充実・強化 ①-1 集合又はWeb会議システムにて4月26日、5月26日、6月28日、7月26日、10月5日、10月25日、11月29日、12月20日、2月1日、2月28日、3月29日の機構の企画委員会並びに4月27日、10月6日、2月2日の機構の校長・事務部長会議に参画した。 また、機構が開催する各種会議・セミナーにWeb会議等により参加した。</p>
<p>①-2 校長・事務部長会議及び企画委員会等において示される課題や方針等について、速やかに学内での情報共有を図る。</p>	<p>①-2 校長・事務部長会議及び企画委員会等において示される課題や方針等について、都度メール、資料の回覧、企画運営会議及び教員会議での報告等により速やかに学内での情報共有を行った。</p>
<p>①-3 各種会議において、必要に応じ本校の状況・意見等を発信する。</p>	<p>①-3 第4ブロック校長会議(第1回6月1日開催(集合会議)、第2回10月14日開催(集合・ビデオ会議)、第3回3月8日開催(ビデオ会議))、四国地区国立高等専門学校校長・事務部長会議(第1回5月9日開催(集合・ビデオ会議)、第2回3月8日開催(集合・ビデオ会議))、四国地区国立高等専門学校校長打合せ会議(臨時12月10日開催(集合会議))、各種部課長会議等において、本校の状況・意見等を発信した。</p>
<p>②-1 理事長と校長との面談等において、本校の状況・意見等を発信する。</p>	<p>②-1 8月25日に実施された理事長ヒアリングにおいて、本校の状況・意見等を発信した。</p>
<p>②-2 新任教職員を対象にしたオリエンテーション、各種研修会を通じてコンプライアンスの意識の向上を図る。 また、機構本部が実施する階層別研修や各種説明会に参加するとともに、機構が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用し、自己点検を行う。</p>	<p>②-2 新任教職員を対象にしたオリエンテーション、本校主催のFD・SD研修会において、コンプライアンス研修を実施し、コンプライアンスの意識の向上を図った。 また、機構本部が実施する階層別研修や各種説明会に参加するとともに、機構が作成したコンプライアンス・マニュアル及びコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用し、自己点検を行った。</p>
<p>②-3 事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達・対策などを行う。</p>	<p>②-3 発生した事案に応じ、法人本部と十分な連携を図り、速やかな情報の伝達を行い適切な対策等を講じた。</p>
<p>③ 公的研究費に関する内部監査マニュアルに基づき内部監査を実施し、監査結果については、情報共有し、効率的・効果的かつ多角的な監査が可能となるよう、監査項目の見直し等について検討する。 高専相互会計内部監査マニュアルに基づき高専相互監査を実施し、監査結果については、情報共有し、規則に則った適切な会計事務処理を確認する。</p>	<p>③ 機構本部作成の「公的研究費に関する内部監査マニュアル」に基づき、キャンパス間相互会計内部監査を2月頃に実施し、規則に則った会計事務処理の確認及び運用上におけるキャンパス間での整合性を確認した。 高専相互会計内部監査マニュアルに基づき高専相互監査を11月に実施し、監査結果について情報共有、規則に則った適切な会計事務処理を確認した。</p>
<p>④ 「公的研究費の管理・監査のガイドライン」及び「高専機構公的研究費不正防止計画」に基づき、公的研究費等の不適正経理を防止する。</p>	<p>④ 公的研究費等の不正使用の再発防止策を徹底するため、年度当初(4月)に新任教職員を対象とした「研究費等不正使用防止に関する研修会」を実施した。また、9月には全教職員を対象とした「FD・SD研修会」において、有限責任監査法人トーマツによるコンプライアンスについての講演を実施し、研究費等不正使用防止対策の取り組みを行った。</p>
<p>⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、香川高専の年度計画を定める。</p>	<p>⑤ 機構の中期計画及び年度計画を踏まえ、香川高専の年度計画を定めた。</p>